

1 部の使命

私たち教育部は、ふるさと養父市の未来を担う子どもたちをど真ん中に捉え、全ての市民にとって、学びのあふれる教育環境を地域総がかりでつくる教育の実現を目指し、学ぶ楽しみ・育てる喜びを感じられるよう、「生きる力」を育む0歳からの一貫した教育環境を、全職員が個々の能力を出し合い、市民と共に創ります。

2 部の経営方針

【価値】 更なる独自性のある政策展開

【人材】 人材育成（専門職含む）

【財政】 安定的な財源の確保

（経営の仕組みに関する取組内容）

【市民】 市民からの信頼度のさらなる向上

- ・エビデンスに基づいた事業計画立案

【経営】 教育、子育て環境の格差是正

- ・家庭環境や社会環境による影響を受けず、子どもたちの学びたい意欲や夢に向かって頑張ろうとする意欲を支える学びの場を創出する。
- ・市の将来像を描き、実現するための道筋を組み立て取り組む思考力と実行力を養う（バックキャストिंग）。

【計画】 施設の計画的な維持管理の推進

- ・事業の実施に当たり、年度当初に事業ごとのスケジュールや取組事項を表にまとめ、部内会議で情報を共有し、スケジュール感をもって事業に取り組んで行く。

【政策】 デジタル社会に向けた取り組みの充実

- ・ICT機器の積極的な活用により、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に取り組む。

【協働】 市民協働による地域力の拡大

- ・コミュニティースクールの推進

【改善】 前例踏襲の打破

- ・役割を終えた事業の見直しや再構築、事務処理手順の見直しなどに取り組む。
- ・学校給食センター調理配送等業務の民間委託

3 重要経営課題

- ・まちの根幹を成す 心豊かで自立する人づくり
- ・学びがあふれる教育環境づくり

4 部の重要政策の取組内容

【教育課】

小学校施設整備事業（学校施設等長寿命化対策事業） 7,000千円

小・中学校施設整備事業（屋内運動場空調設備整備事業） 231,400千円
（養父小・広谷小・高柳小・八鹿小・関学後期）

【こども学び課】

小・中学校教育振興事業（不登校児童生徒支援員配置事業） 7,500千円

部活動推進事業（部活動地域移行体制整備事業） 4,400千円

【100年のまなび共創課】		
スポーツ活動支援普及事業（WMG機運醸成）		2,030千円
全国高等学校総合体育大会（登山の部）		1,907千円
【歴史文化財課】		
史跡八木城跡整備事業（公園・駐車場整備）		32,895千円
文化財保管庫整備事業		60,000千円
【学校給食センター】		
蒸気源蓄熱更新工事		6,787千円
厨房排気脱臭装置脱臭ブロック工事		4,276千円

5 部の経営目標

【政策①～⑥の数値目標】	
①地域全体が子育てや教育を支えていると感じる人の割合：21.6%	
③自分らしく暮らしていると思う人の割合：70.1%	
【経営目標】	
1 学校のあり方検討委員会の答申に基づき学校園所の適正配置の推進	
2 教育環境整備の継続（屋内運動場空調整備）	6校整備
3 部活動地域クラブ新規団体	13団体
4 コミュニティースクールの機能強化	
5 文化財の適切な管理（文化財保管庫の整備）	鉄骨造 300㎡
6 給食食材地元産使用率：30%	
有機農産物使用率：7.5%	

6 前年度の経営目標及び実績

【令和7年度実績】	
○1 将来を見据えた学校園所の検討のスタート//教育のあり方検討委からの答申	
○2 教育環境ハード整備（中学校屋内運動場空調整備）：2校//2校完了（八青中、養父中）	
○3 部活動地域クラブの新規支援団体：2団体//6団体	
○4 不登校児童生徒支援員の増員：2人（計7人を目標）//5人	
○5 スポーツ大会参加者数：4.5千人以上//4,524人	
△6 文化財保存関係団体の活動の支援：15団体以上//14団体	
△7 給食食材地元産使用率：30%以上//26.9%	
有機農産物使用率：5%以上//7.5%	
【評価】	
1～6までは概ね達成したと考える。	
7については、入手可能な地元産野菜の量が減ったため、未達成となった。	
【原因】	
生産者の高齢化などにより、生産量が減少していると思われる。	
【改善】	
「地元産」の定義を、但馬域内産とし使用率の向上を図る。市内については、農林担当部署により生産拡大を検討してもらう。	